

旭市下水道事業運営協議会 会議概要

1 日 時 令和8年9月24日（木） 午後2時～午後4時

2 場 所 旭市役所本庁舎 3階政策決定室

3 出席者

飯 嶋 伊千良 会 長	出	崎 山 正敏 副会長	出	桂 山 順行 委 員	欠
高 野 和彦 委 員	出	宮 内 柄一 委 員	出	阿 部 美津江 委員	出
渡 邊 恵美子 委 員	出	加 瀬 美奈 委 員	出		

事務局（上下水道課）：向後課長、高木副課長、上代副主幹、品村副主幹
山本主査、岩井主査、竹中副主査、小倉主事
エスティコンサルティング（株）（使用料改定委託業者）

4 配布資料

- 1) 会議次第
- 2) 旭市公共下水道事業及び旭市農業集落排水事業使用料改定について
- 3) 令和7年度旭市公共下水道事業会計決算の概要について
- 4) 令和7年度旭市農業集落排水事業会計決算の概要について
- 5) 旭市下水道事業運営協議会委員名簿
- 6) 旭市下水道事業運営協議会条例

5 会議概要

◎旭市下水道事業運営協議会

- 1) 開会
- 2) 市長あいさつ
- 3) 議題（議長：会長）

【議題】(1) 旭市公共下水道事業及び旭市農業集落排水事業使用料改定について

事務局より、配布資料2) について説明

1. 前回の振り返りについて

委 員：農業集落排水事業の経費回収率について、令和3年と比べて令和4年度は大幅に回収率が低下している。何か理由があったのか。

事務局：令和4年度において、修繕費等の費用が前年度と比べて高額であったと記憶している。費用が増額となったにもかかわらず、使用料収入が前年度と変わらなければ、経費回収率は低下してしまうのでこのような結果になっていると思われる。

委 員：経費回収率の低下が一時的なものであるのならば、令和5年度に令和3年度

と同等位に戻るはずである。しかし、若干の増加はしているものの低い状態が維持されているということは、一時的な現象ではないということか。

事務局：おっしゃる通りである。今後も機器等の不具合で修繕等の費用の増加も考えられるので、一時的な現象ではない。

委員：公共下水道事業と農業集落排水事業それぞれの経費回収率の県平均値について、両事業を見比べた時にだいぶ差が生じている。根本的な理由があるのか。

事務局：両事業の経費回収率の差は、公共下水道事業は人口密度が高い地域が多く農業集落排水事業は人口密度が低い地域が多いことが差が生じている理由としてあげられる。人口密度による経費に対する使用料の収入の度合いが異なるところが大きな理由となっている。

委員：旭市における公共下水道事業の経費回収率と県平均を見比べた時に、旭市のほうがだいぶ低いが、事業開始当初から低い状況であったのか。それともある時から低い状況となったのか。

事務局：事業開始当初から低い状況であった。

委員：では事業開始当初より、低い状況を脱却すべく何か計画をしていたのか

事務局：事業開始当初は、計画面積を目指して事業を推進していたが、概ね現在の普及率に落ち着き、現状の経費回収率の40%台を推移している。

委員：市として、このままだと経費回収率の改善が難しいと判断したのはいつ頃であるか

事務局：一昨年、下水道計画区域の見直しを千葉県と国に申請した。計画区域を既成している区域とし、整備区域を確定するということで、その中で接続率を改善して、経費回収率を上昇させるという計画で推進している。

委員：2～3年前位からの話ということか

事務局：国も人口の少ない公共下水道事業に対して、面積等計画の見直しを県を通じて指導していたので、2年程前か、それ以前から計画区域に関しての見直

しは国や県と協議をしていた。

委員：2～3年前からだとすると、事業開始からそれまで結構な期間があったがその間、市は何をされていたのか。

事務局：まず、事業区域を計画的に設定しまして、その中で推進活動を行っていた。区域の同意が整った時点で市民への説明会や推進を行い、特に旭駅周辺を重点的に行っていたが、工業団地周辺やその間を結ぶ市街地においてなかなか推進が進まなかったのが現実である。

委員：当初から値が低く、改善の見通しが立たないようであればもっと早く手を打つべきではなかったのかと強く思う。

委員：減価償却は何年償却であるか。

事務局：償却期間は、管路が50年、建物が40年、機械は物により様々である。

委員：減価償却の割合の中で期間の長いものと短いものがあるとのことだが、どちらが多いのか。

事務局：建物と管路、浄化施設の機械という順番になる。

委員：減価償却費の割合が多く、減らない限りどうしようもなく、償却期間が過ぎるまで待つしかないという気がするが、その間に修繕等の費用が出てくる場合、どのようなになるのか。

事務局：事業開始から25年程経過し、浄化施設の機械類は償却期間を過ぎているものもあり、更新しなければならないものもある。そのような中で、国の長寿命化対策事業の補助を受けながら新たに投資し期間をのばす方法をとっている。また、耐震化も必須になり、計画をたて推進していかなければならないものとなっているので費用負担の関係も国との協議をしていく。

委員：比較的更新の頻度が短い機械関係について、施設の大きさに合わせて全てを更新するのではなく、本当に必要な機械関係のみを更新していくようになるのか

事務局：現状、オーバースペックの状態が否めなく、ダウンサイジングや省力化

も目指している。しかし、いきなり器を小さくすると逆に不経済となる可能性もあるので、都度、調査協議しながら進めていくことが重要になるかと思う。

2. 下水道使用料の算定について

委員：使用料体系が公共下水道と農業集落排水で異なるが、当初から何らかの理由があったのか。

事務局：前回、5月の運営協議会でもお示ししましたとおり、各事業の目的と内容から、農業集落排水事業については土地改良事業の一部で、農業集落から排出される生活用水を農業用水に転換し利用しようという考えや水の利用が農作業に使用されてるといような観点から、下水道事業とは異なる体系となっている。

前回の協議会において使用料体系は現状のまま踏襲させていただく旨委員の皆様にご了承いただいた次第である。

委員：使用料体系について、両事業統一できないものなのかという思いもある。

事務局：今回協議するにあたり、統一にすることが可能なか確認をしているが、システム改修に係る経費やその後の調整等についても有利に働かない可能性があるため、現体系を維持していく話をさせていただいた。

委員：わかった。両事業間で不公平が生まれないようにしていただきたいと思う。

2. 使用料水準の検討について

委員：現行の使用料体系のまま一律に改定した場合の改定パターンを示している。先々の人口減少や未接続の人の今後の接続も加味しているか。

事務局：人口減少について、需要予測をたてる中で加味している。

委員：資料中、浄化槽使用世帯との1か月の使用料の比較の記載があるが、全国平均値との比較であるからか、自分自身が年間で支払っている金額よりも

高く感じる。よって、使用料改定を行ってもなお下水道使用料の方が安いと説明されても違和感がある。

事務局：市町村が設置している浄化槽の平均値となるので、初期投資や減価償却費もみている値であるためこのようになっている。

全国平均値であるため、次回協議会時により詳細な値が確認できれば再度お話ししていきたいと思う。

委員：そもそも、使用料収入だけで経費を賄っていない現状や利用者も市全体でみると約1割程度である状態であるとなると、下水道事業の計画から間違っていたように思える。結局、使用料の値上げを行っても受益者は損をしているように感じる気がしてしまうし、市の計画誤りを受益者が負担するような形になってしまう感じがする。市はどのように考えるか。

事務局：率直な意見をいただき感謝申し上げます。

まず、下水道事業自体が誤りであったのかについては、今何とも申し上げることができない。

委員がおっしゃっていることは十重理解しているところではあるが、ある一定の利用者の負担は踏み込まなければいけないところだと感じている。ただ、事業を推進してきた行政として、一般会計の役割や下水道事業の計画推進の中での責任も担っていかなければならないと考える。

議長：他に意見がないようであれば、本日、委員の皆様からの意見を踏まえて再検討を行い、次回以降引き続き協議してまいりたいと思いますのでよろしくお願いしたい。

事務局：今回の協議のまとめ

配布した資料について初見での事務局からの説明となり、理解が難しい部分もあるかと思しますので、ご質問や不明点等があればいつでも事務局にご連絡いただきたい。一緒に理解を深めながら、次回に繋げていく。

4) 報告

- (1) 令和 7 年度旭市公共下水道事業会計決算の概要について
- (2) 令和 7 年度旭市農業集落排水事業会計決算の概要について

5) 閉会